

異なるメーカー間で世界初の隊列走行実証実験を実施 ～新東名高速道路上り線浜松SA～遠州森町PA間～

国土交通省



経済産業・国土交通両省は1月23日、新東名高速道路上り線浜松サービスエリア（SA）～遠州森町パーキングエリア（PA）間で、CACC（Cooperative Adaptive Cruise Control）を用いたトラックの後続有人隊列走行実証実験を開始しました。

国内の大型車メーカー4社が共同開発したCACCを活用し、異なるメーカーが製造したトラックによる後続有人隊列走行は世界で

初めてです。

CACCとは、先行車の加減速制御情報を車車間通信で取得し、加減速制御に用いることで、従来のACCよりも応答遅れや車間距離の変動が少ない走行をすることが可能なシステム。より広範な走行シーンでのACCの活用や、長距離走行における運転者の疲労軽減、短い車間による燃費改善などの効果が期待できるものです。

実証実験では、トラック3台が隊列走行することで周边走行車両の乗員からどのように認識されるか（被視認性、印象等）、トラック隊列が周边走行車両の挙動（追い越し等）に及ぼす影響などを確認します。